

まえがきにかえて——「話体表出の方法」について…………… 016

第一章

努力する人間になつてはいけない

——これから社会人になるあなたたちへ

■努力する人間になつてはいけない…………… 026

努力する人が目標を達成できない理由／努力主義はエゴイズム／〈努力する〉の反対語が〈考える〉

■イノセントであつてはならない…………… 034

最初はみんな泥だらけ／「時間がない」「お金がない」は禁句

■単純な仕事にほど差異がある…………… 041

コピー初級・中級・上級／「期待通り」では〈信用〉は生まれない

■マーケットは会社の〈外部〉にあるわけではない…………… 047

社内の対立意見はマーケット獲得の前哨戦／お客様は「遠い」ところからやってくる／

「お客がつく」技術者とは

■〈顧客満足〉とは何か…………… 055

現代人は〈記号〉を消費している／「自立」とは払いたくないお金を払うこと

第二章

掛け算の思考 割り算の思考

——これから勉強を始めるあなたたちへ

■自立してはいけない…………… 068

メダカ状態に自分を追い込むな／依存とは信用のこと／勝手に自分で考えるな

■掛け算の思考、割り算の思考…………… 078

専門家に専門的な仕事を任せるな／掛け算で城壁を飛び越えよ／社会人の勉強は単なる後悔

■読書〈初級〉〈中級〉〈上級〉…………… 085

書物の〈心〉を示す語句を見出す／クルマの〈心〉を読めるガソリンスタンド

第三章

就職活動への檄二〇箇条

——大きな企業が有利な本当の理由

■「一流」とは何か…………… 096

うさんくさい「出世」をする人の特徴／どんな〈現在〉にも有利、不利はない

- 就職活動、出陣の言葉——できるだけ大きな企業を目指しなさい……………100
若いうちではできるだけ大きな企業を狙いなさい／人生の大逆転／「遠い」ものを見る力が就職活動を制す
- 就職活動開始の学生諸君に贈る「就職活動への檄二〇箇条」……………111
- 八王子・大学セミナーハウスの青春
——進路とは進路を考えなくても済む専門性を身につけること……………119
何もかも忘れて没頭できるものを見つけよう／高等教育は若者の自尊心を破壊するところ

第四章

「読書」とは何か

- 本を読める人はわからないことを恐れない人
- 読書の方法と無方法——なぜ読めないのか……………126
わかる。箇所からこじ開ける／始まりも終わりもない書物
- テキストを読むとは、何を意味するのか
——福沢諭吉『独立のすすめ』感想文コンクールの審査結果が発表されました……………130
すぐに自分の意見を述べるな／テキストの〈像〉を理解せよ

- 「コピペ」は本当に悪いことなのか
——NHK「クローズアップ現代」の視点は不毛……………133
レポート評価は教員の手抜き／研究者の論文は「引用」(コピペ)が決め手

第五章

家族は「社会の基本単位」ではない

——家族の社会性と反社会性について

- 小田急線の少年に出会う
——大人と子供との出会いがこんなにも楽しいなんて(春は近い)……………140
男性の手元を真剣に見つめる少年／腕時計少年の純粋さに乾杯！
- 予備校営業が突然家にやってきた——リビングの家族の顔末……………144
塾や予備校を見極める二つの質問／僕はお父さんに捨てられたんです／あなたがこの仕事をしている意味がわかった
- 老兵は消え去るのみ——息子の太郎がわが家を巣立つ……………156
わが家の子育て方針／警察に補導された息子に伝えた言葉／親として引退する作法は難しい
- 散髪屋にて——勤労感謝の日を祝して……………167
散髪。と。通勤。は代理がきかない／父親の夢を実現する長い、遠い道程

第六章

なぜ、人を殺してはいけないのか

——愛の自由と出生の受動性

- なぜ人を殺してはいけないのか——一つの〈責任〉論……………174
自由に殺しうるから深く愛しうる／生の受動性を受け入れることができるか
- 人間の病気は、機械の故障と同じではない……………180
人間の機能、目的とは何か／生死は間断なく再生する
- コミュニケーションは沈黙の中にある……………183
沈黙が怖くてたまらない／会話なんていつも片思い
- 女性とは何か——女性にとって男性とは何か……………187

第七章

学校教育の意味とは何か

——中曽根臨教審思想から遠く離れて（個性・自主性教育はいかに間違ったのか）

- 学生は〈顧客〉か——〈学校教育〉とは何か……………200
学校教育と生涯教育の違い／教員と学生の関係は〈利害〉関係ではない

■学校教育と生涯学習と家族と

——中曽根臨教審思想の呪縛（学ぶことの主体とは何か）……………205
個性・意欲重視の教育は学力格差を拡大させるばかりではなく、意欲自体を衰退させる／
学校の校門と塀の意味

■〈シラバス〉はなぜ機能しないのか——大綱化運動の経緯と顛末……………213

自己表現主義カリキュラムの矛盾／討論型、体験型授業の流行

- 大学全入時代におけるカリキュラムとは何か（インタビュー・田村耕太郎）……………219
「積み上げ型」になっていないカリキュラム／教員人事が大学のカリキュラム改編を妨げている／教
育に「社会人としての偏差値」を持ち込む／科目が多すぎることの弊害——四単位、六単位授業
を増やすこと／従来の「それなり教育」では就職できない／日本の若者は消費者としてのエリート

第八章

キャリア教育の諸問題について

——学校教育におけるキャリア教育とは何か（ハイパー・メリトクラシー教育批判）

- 接遇Ⅱコミュニケーション能力と専門教育と……………244
——キャリア教育は本来の学校教育を衰退させる……………244
お客様は黙って立ち去る／接遇教育が専門教育を衰退させる

■ 大学における「キャリア教育」の行方
——就職センターの充実する大学はカリキュラム改革に向かわない……………248

なぜ「教育の本体」を改革しないのか／就職指導は教務の仕事

■ なぜ専門学校は「コミュニケーション能力」に走るのか

——技能教育と技術教育とハイパー・メリトクラシーと……………256

専門的な知識とは商品知識ではない／キャリア教育は「力」教育の掃きだめ

第九章

ツイッター微分論

——機能主義批判と新人論と

■ 気仙沼はどうなっているのか…… — 「港町ブルース」と大震災……………266

新人は見つかったときには終わっている／〈現在〉を微分するツイッター、あるいは井上陽水の「傘がない」

■ 機能主義とメディアの現在 —— 学校と仕事と社会の新人論（講演）

1 機能主義とは何か……………275

機能主義の起源はバプロフの犬／機能主義はインプットとアウトプットとの〈中間〉にあるものは無視する／コントロールできないものとコントロールできるもの／サイバネティクスの原理は「実

際の」行動に対応すること／フィードバックシステムは「思考」と同じ／機能主義から行動主義へ／チューリングテスト

2 機能主義の墜跌……………286

フレーム問題／〈関係のないもの〉を無視する、忘れることができる人間

3 環境とは、後からやってくるもの……………291

因果を辿れない「環境」／自伝は、自分の人生を二度殺しているのと同じ

4 データベースと後悔……………296

〈後悔先に立たず〉を解消するためのデータベース／なぜ〈検索〉なのか

5 近代の問題……………302

近代的主体性＝自由の問題 —— 人間性を言うのは差別主義、階級主義／マークシート試験、○×試験、選択問題こそが、近代的自由の源泉

6 ツイッターにおける自由と平等……………310

検索主義の解体 —— グーグルの時代の終わり／ツイッターにおけるストックの時間性 —— 専門性とは入力と出力との間に時間差があること／ハイパーリンクの課題 —— 強力な学びの主体がないと機能しない

7 ツイッターにおける検索主義の解消……………318

ツイッターの五つの特徴

- (一) ツイッターはデータベース≠ストック情報ではない
- (二) 単にフローではなく、〈現在〉を共有している
- (三) 現在の共有≠インプットとアウトプットとが同時に存在する
- (四) 情報の受発信の先に、書き手と読者とがいつも同時に存在している
- (五) この書き手と読者とは、いつも断片化し、ストック化に抗う

8 一九九〇年代中盤から始まったオンライン自己現象 …… 324
ネット上の人間関係でしか自己を形成できない人たち／ハイパー・メリトクラシー教育

9 消費社会における知識のあり方 …… 328
消費社会の深化はストック人材をますます不要にしてい

10 IT社会（高度情報化社会）と「オンライン自己」 …… 331
人間関係重視の社会／高卒求人件数の九割減と〈主体〉の時代／小さな共同体における他者の肥大
／内面の肥大とツイッター現象／現在を微分することの他者化機能

11 ツイッターの〈現在〉の限界とポストモダン …… 342
現在の微分は、身体と死の微分／死ぬことと死ぬことの代理／死の記号化は、記号化（代理性）の
起源でもある——「コミュニケーション」としての死／個性とは、内在の別名か——土井隆義の
『個性を煽られる子どもたち』における個性論（1）／〈現在〉を書き留める「濃密手帳」——土井
隆義の『個性を煽られる子どもたち』における個性論（2）／関数主義としての機能主義

(functionalism) こそが、〈個性〉を要求する／個性幻想とコミュニケーション幻想との機能主義的
な矛盾／ヘーゲルと「存在しない」今と／「終わりなき日常を生きろ」と終わりの日常化／「人間
は外見じゃない」というのはあり得ない——「話せばわかる」が無効になること、あるいは決着の
時間性について／動物の生死と人間の生死とツイッターと——ツイッター再論（1）／身体心理
主義化と「死ぬなう」——デカルトの〈主観〉の現前性からハイデガーの〈気分〉の現前性へ——
ツイッター再論（2）

12 〈新人〉の発掘としての学校教育——ハイデガーのエネルギー論と大学 …… 372
新卒人材の「即戦力」論は間違っている／新人賞は矛盾した作品——「作家は処女作へ収斂する」
の意味について／「できない学生」ほど大学へ行くべきだ／終わりを見た人としての大学教授／ハ
イデガーのエネルギー解釈と新人論／最後に——暇な人でも忙しい窮乏の時代

第十章 追悼・吉本隆明

——機能主義批判としての言語の〈像〉概念

■吉本隆明、NHK出演その後

——自己表出の「沈黙」は唯物論的であることについて …… 394
「自分にしかわからない」と思わせたら一流／〈表現〉は不可能なものに賭ける営み／柄谷も蓮實も

「お勉強好きの学生」／吉本隆明尾行

■「検索バカ」と「自己表出」の反ファンクシヨナリズムについて……………405

「検索バカ」な人たち／著作を理解することは「沈黙の解説」

■追悼・吉本隆明……………412

吉本から離れて行き着いた先は…／ちひさな群への挨拶／廃人の歌／涙が潤れる

あとがきにかえて——キャリア教育と高等教育のグランドデザインについて……………424

著作・作品・その他の索引……………444

人名索引……………447

欧語索引（ABC順）……………450

索引（五十音順）……………494